

なかむらあゆみさん 小説「檻」 第3回阿波しらさぎ文学賞 徳島新聞賞



2020年9月12日授賞式にて

徳島文学協会会員のなかむらあゆみさんが、小説「檻」で第3回阿波しらさぎ文学賞の徳島新聞賞を受賞した。作品は、母と二人暮らしで特別支援学級に通う主人公の風子の生活と、イギリス人女性のゾーイさんの巻き込まれた事件を中心に描かれる。女性たちの様々な境遇を檻に例えた本作は、特に最終選考委員の小山田浩子さんに絶賛された。

作品は徳島新聞ホームページに掲載されている。
<https://www.topics.or.jp/articles/-/410359>

受賞によせて

なかむらあゆみ

両親が共働きだったので、小さい頃から祖母や伯父の家でよく過ごした。寂しくは無かったけれど、周りに気に入ってもらえるように小さな嘘をついたり、大げさな自慢話をするような危なっかしい子どもだった。人の目を気にし過ぎたせいか、思春期になると人間関係から逃げだし、学校にも通わず、妄想と本や映画の世界にどっぷり浸る生活を送った。とにかく不器用で、教養もなく、当然のように褒められたことなどないまま大人になってしまった。社会に出てから苦労したのは言うまでもない。

そんな（どんな？）私が書き始めたのは、四十歳を過ぎてから。体調を崩し、働けなくなつた。病院を巡りながら鬱々と家で過ごす私に、母が「時間があるんやったら書いてみたら？」と随筆コンテストのチラシを持ってきてくれた。ならばと当時の心境をありのままに原稿用紙に綴つたのが何もかも始まりになった。

気づけば書くことが生活の一部となり、徳島文学協会にも入会した。そこ

で出会った先輩たちの作品や取り組みに触発されて小説を書き始めた。「阿波しらさぎ文学賞」が創設されたのは丁度その頃。全国規模の文学賞が地元で開催されることに胸がときめき、小説を書いていく中で最初の目標となった。予選に通らなかつた悔しさ、初めて一次通過をして少し自信が持てた瞬間。物語を書くことの難しさと格闘しながらも認められたい一心で応募し続けた。

そして今回思いがけず「徳島新聞賞」を受賞した。沢山の優れた応募作品があつたことが解るだけに、選んでいただいた喜びと感謝の気持ちは今も私の心にしまっている。

実は「私のような人間が小説を書いているなんて」というコンプレックスをいまだ抱えている。受賞作もまだ硬い蕾のような作品かもしれないが、いつの日かこの世界で花を咲かせられる物語が書けるよう努力し続けていきたい。

あゆみ



徳島新聞 2020年8月29日紙面より

開催報告

第三回を迎えた「阿波しらすぎ文学賞」の全行程が終了した。年々応募作が増え、今年は全国から四六五作品の応募があった。見事大賞に輝いたのは蕪木Q平さんの「あまいがきらい!」、徳島文学協会は三浦みなみさん「去年の桜」、徳島新聞賞は、徳島文学協会会員でもあるなかむらあゆみさんの「檻」が受賞した。

九月十二日には徳島市の新聞放送会館にて授賞式と記念文学トークが開催された。受賞者三人の他、最終選考委員の吉村萬吉さん、小山田浩子さん、そしてスペシャルゲストの本屋大賞受賞作家風良ゆうさんがリモートにて出演した。

文学トークでは、審査員、ゲストの風良さんより受賞者のレベルの高さに驚かされたという発言が異口同音にあった。特に大賞を受賞した蕪木さん

「あまいがきらい!」は評価が高く、吉村萬吉さんは「なぐられるほど衝撃を受けた」と述べた。また徳島文学協会賞の三浦さん「去年の桜」についても吉村さんは「悲しみが胸に響く作品」と評価した。徳島新聞賞のなかむらさん「檻」に関しては小山田浩子さんが絶賛し、風良ゆうさんも「この作品が好き。良く書いてくれた」と述べるなどした。

毎年レベルアップしている「阿波しらすぎ文学賞」だが今年も一段とクオリティが上がっていた。第一回の大賞受賞者の大滝瓶太さん、第二回の大賞受賞者の佐川恭一さんの受賞後の活躍は目覚ましく、また近年インターネットの普及によって、本賞がツイッターなどSNS上で話題になり、日本中の書き手にその存在が知られるようになってきたのもその一因だと思われる。

もはや「阿波しらすぎ文学賞」はあ

またある地方文学賞の一つではない。個性とクオリティの高さから、全国からも注目される文学賞となってきた。この賞を受賞することは自身の文学性を客観的に評価される機会となるばかりか、今後は作家としてのデビューの足掛かりにすらなるに違いない。徳島文学協会のメンバーの皆さんには、各賞の受賞を目指して、ぜひとも第四回に応募いただきたい。

なお記念文学トークの様子はYouTubeにて現在も無料で視聴できる。来年に向けて、参考に視聴していただければ幸いです。



リモートによる文学トークイベント



文学トークイベントの様子を伝える徳島新聞紙面

■ 第3回 阿波しらすぎ文学賞 受賞作品紹介

受賞3作品と選考委員の選評をお読みいただけます。

<https://www.topics.or.jp/articles/-/410348>



■ 阿波しらすぎ文学賞記念文学トーク

文学トークの様子をYouTubeでご覧いただけます。

<https://youtu.be/cW-nV7ba9MY>



お待たせしました！

みんなの文芸誌

『カクヲタノシム』 第2号発刊！

みんなの文芸誌『カクヲタノシム』第2号が、皆さまのご寄稿により、ようやく発刊の運びとなりました。

『カクヲタノシム』は、徳島文学協会が開催する「小説広場」みんなで合評会」や「パソコン倶楽部」と連携した文芸誌なのですが、今年はコロナ禍の中、みんなで集まることもできず、「小説広場」を通信制の合評会に変更。小説作品を毎月受付。参加者の皆さんから届いた「みんなの感想」とアドバイザーが添削した推敲原稿を作者の方に郵送するという形をとりました。苦労しましたが功を奏して、かなり皆さんレベルアップした小説をお寄せくださいました。

さらに巻頭小説には幻冬舎から単行本を出版されました菊野啓さんの新作を。同著者のデビュー作『邪眼』の書評を富士野賢太さんに依頼。第三回阿波しらす文学賞・徳島新聞賞を受賞されました、なかむらあゆみさんの短編小説も掲載しています。今回は俳句

を書かれる方にも楽しんでいただけるよう、俳人・うっかりさんの協力のもと香川県在住の俳人・涼野海音さんの特集を企画。また、できるだけ大勢の会員さまに参加して貰いたいという思いから『200文字メッセージ』も特集の第二弾として掲載しています。その他、エッセイあり、詩あり、短歌ありと盛りだくさんです。ぜひ、お手にとってお楽しみください。

※冊子購入希望の方は事務局までお申し込み下さい。



カクヲタノシム vol.2

『カクヲタノシム』第3号は、皆さんの原稿が集まり次第、発刊させていただきます。詳しくはお問い合わせください。

『徳島文学 Volume 4』 二〇二一年春、発行。

徳島文学協会発行の文芸誌『徳島文学 Volume 4』の原稿を募集します。

徳島文学協会では、年一回文芸雑誌を発行しています。芥川賞作家やプロの文学者を筆者に招き、地方の文芸誌としては類を見ない商業雑誌に匹敵するクオリティの雑誌を目指します。会員の皆さまの優秀作品をプロの作家と同じ誌面に無料で掲載いたします。皆さまの傑作をお待ちしています。

◆応募資格
徳島文学協会会員限定

◆応募作品
小説・評論・随筆・詩・短歌・俳句など広義の文学作品、および書評。未発表作品に限る。

◆締め切り
二〇二一年一月十二日（火）

当日消印有効
徳島文学協会事務局まで郵送

詳細はホームページにて

https://www.t-bungaku.com/introduction/bunga_ku04.pdf



コラム募集のお知らせ
二〇二一年四月発刊予定の『徳島文学』第四号で、会員の皆さんからのコラム（テーマは自由）を募集します。

小説をはじめとする文学作品は敷居が高いと思われる方でも気軽に応募いただけるよう、審査基準を緩やかにします（極端に内容の偏りがある場合は除く。また編集部より表現の不確かな点、誤字脱字など最低限の指摘はさせていただきます）。

■分量

十八文字×六十四行
※行数をオーバーしないよう調整ください。また分量が極端に少ない場合は掲載できませんのでご了承ください。

「ム」：古代エジプト文明の知恵の神

「ト」：「ト」由来です。

文学イベント案内

対面開催のイベントを一部再開します

マスク着用・参加前の検温・接触確認アプリの活用にご協力をお願い申し上げます。
発熱・咳などの風邪症状がある方や、体調がすぐれない方は参加をご遠慮ください。

小説エキスパート講座

全国公募の文学賞で最終選考程度の実力のある方やプロの作家を目指している方。また、作品を提出した上で講師からの指名があった方を中心に、本格的なスパリングを行います。

- 開催日 ①2020年12月19日(土) 21時～22時
②2021年3月13日(土) 21時～22時
- 開催方法 『Zoom』による開催
- 参加費 会員のみ対象 無料
- 講師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定員 10人程度
- 締切 開催日の10日前まで ※先着順

※作品提出方法

Microsoft Wordソフトで書かれた小説(400字詰め原稿用紙換算50枚から200枚程度)を事務局宛てにメール添付でお送りください。

通信句会

メール及びハガキにて投句を受け付ける通信句会を開催します。日程や句会の進め方などは追ってご連絡いたしますので、参加希望の方は事務局までご連絡ください。

- 開催日 2021年1月
- 参加費 会員のみ対象 無料
- 講師 俳人・うっかり

第二回 民雄忌 ～北條民雄を偲ぶ会～

この度、徳島文学協会が主催者となり第二回「民雄忌～北條民雄を偲ぶ会～」を開催します。11月25日にKADOKAWAより『いのちの初夜』が復刊されるのに合わせ、北條民雄の命日に開催することとしました。コロナ禍の状況を鑑み定員は先着30名とさせていただきます。

zoomによる出演

- 作家 高山文彦
- 作家 吉村萬吉
- 編集者 山本渉 (KADOKAWA)

- 開催日 2020年12月5日(土) 14時～
- 会場 アミコシビックセンター 4F活動室3
- 参加費 1,000円
(テキスト『いのちの初夜』角川文庫を含む)
- 定員 30名 ※要申し込み
- 締切 11月25日まで
徳島文学協会事務局へ電話またはメールでお申し込みください。
但し、定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

ブラッシュアップ小説講座

既に小説作品を複数書かれている方が更なるステップアップをするための小説実作講座です。レベルとしては地方文学賞で入賞以上を目指す中級程度の内容となります。参加者の作品を組上に載せて参加者全員で批評会を行います。またプロの作品を取り上げ勉強会の場とします。

- 開催日・開催方法
【対面による開催】会場：徳島県立文学書道館
①2021年1月30日(土) 19時～20時
②2021年3月27日(土) 19時～20時
【Zoomによる開催】
③2021年2月27日(土) 21時～22時
- 参加費 会員のみ対象
対面：1,500円 Zoom：無料
- 講師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定員 15人程度
- 締切 開催日の10日前まで ※先着順

※作品提出方法

Microsoft Wordソフトで書かれた小説(400字詰め原稿用紙換算30枚から80枚程度)を事務局宛てにメール添付でお送りください。

詳細は徳島文学協会ホームページ
イベント情報をご覧ください

<https://www.t-bungaku.com/event.html>

ご入会や講座のお申込み・お問合せは徳島文学協会事務局まで

〒771-3201 徳島県名西郡神山町阿野字方子 103

TEL : 080-6284-0296 society@t-bungaku.com <https://www.t-bungaku.com/>